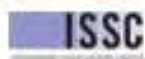


海外動向

- 2008年 品質管理された科学データの長期的な保全と提供を支援するICSU-WDS (World Data System) (世界科学データシステム) 設立。その国際プログラムオフィス (WDS-IPO) は2010年国立研究開発法人情報通信研究機構 (NICT) に設置。
- 2013年 データ共有を円滑に推進するため、国際的なコンソーシアム Research Data Alliance (以下 RDA) 創設。研究者や技術者によるボランティアベースで国際標準の形成を目指す。第7回 RDA 総会は2016年3月にアジア初東京で開催。
- 2015年 ICSU-IAP-ISSC-TWAS のワーキンググループが科学者や研究機関、出版社などオープンデータに責任を持つべきものなど10項目の指針をまとめた。
- オープンサイエンスのための共通基盤整備が欧州 (EUDAT)、米国 (OSF: Open Science Framework,) などで推進。



Principles of Open Data

- Responsibilities
 - Scientists
 - Research institutions and universities
 - Publishers
 - Funding agencies
 - Professional associations, scholarly societies and academies
 - Libraries, archives and repositories
- Boundaries of Openness
- Enabling practices
 - Citation and provenance
 - Interoperability
 - Non-restrictive reuse
 - Linkability

<http://www.icsu.org/science-international/accord/open-data-in-a-big-data-world-short>

Science International 18.00h CET, 7 December 2015.

ICSU: the International Council for Science

IAP :the Inter Academy Partnership

ISSC :the International Social Science Council

TWAS : The World Academy of Sciences

学協会へのアンケート

- 第1部、第2部、第3部それぞれの関連学協会へのアンケートを実施。
- 回答のあった学協会のうち、過半の学協会が論文や論文にかかわるデータ、データベース等のデジタルデータを既に公開。
- 半数程度の学協会では研究者個人がデータを保有しているが、共通のフォーマット・様式を整えれば価値を生む可能性のあるデータがある。
- 残念ながら、内閣府報告書の存在については、回答のあった学協会ではあまり認識されていなかった。
- 過去5年の間に、オープンサイエンスをテーマとしたイベントの開催事例があるのは、1割程度とあまり多くなかった。
- 半数近い学協会がオープンサイエンスに関する自由意見を寄せており、オープンサイエンスに大いに興味を持っている。

オープンサイエンスの論点整理 (1/3)

- データ: 現物 (wet data)+デジタルデータ(dry data)
ex. 創薬等支援技術基盤プラットフォーム(化合物+メタデータ+構造式)

生産 ▶▶ 流通 ▶▶ 活用

- オープンの意味
 - すべてオープンではない、よりオープンに
 - オープン・クローズ戦略とガイドライン
 - 占有期間(embargo)
 - データ すべて/部分的(メタデータetc)/クローズ
 - 解析ツール すべて/部分的/クローズ
 - 論文化/特許化